

ームワークの中でいくつもの理論が作られ、Cane and Zebiak とか Shopf and Surez などはシミュレーションに成功したと言ひ、さらに予報まで出ている。ところが、今日のこの会場の空気はこの考え方に批判的である。チベットの雪など海より陸が大事だという話が出ている。この点に関して数値モデルで実験をしている時岡さんの意見を求めたい。

時岡：まだきちんと調べたわけではないが、研究所のモデルの季節進行を見ると冬から夏に向かうときヒマラヤの雪が消えるのが実際より1か月ばかり遅く、そのために大循環の季節進行も遅れている。このように陸上の雪が大循環に大きな影響を与えるという結果が出ているので年々変動にも重要な役割をはたしているかもしれない。

司会：安成さんはエル・ニーニョとヒマラヤの雪の関係を強調されたが、

安成：モンスーンとエル・ニーニョの関係についてみると、エル・ニーニョの年にモンスーンが弱いということが知られている。1972年にしても1982年にしてもエル・ニーニョのおこる前のモンスーンは弱かった。統計的にもはっきりしていることだが、モンスーンの変動の方がエル・ニーニョに先行しているのでモンスーンの予報には使えない。一方、モンスーンの変動とヒマラヤの雪というのは関係があるということが知られているから、モンスーンを介してヒマラヤの雪がエル・ニーニョに影響して

いるかもしれない。

司会：山形さんは ENSO の最後の段階であるエル・ニーニョの発生には大気・海洋系の不安定が重要であるが、ENSO のサイクルそのものは海洋でなく別のものが決めていてもよいという考えのようだが……。

山形：ケルビン波の不安定はエル・ニーニョにとって重要だが、海は大へん慣性が大きいので、ケルビン波が東岸にぶつかって沢山のロスビー波を作り、それが元へ戻るまでには6年とか9年とかかかる。したがって、エル・ニーニョの引き金をひくのは別に何かあるかもしれない。

別のことになるが、安成さんがモンスーンの変化がエル・ニーニョに先行するから、エル・ニーニョによってモンスーンが影響されるというのは疑問であるというように言われたが、ENSO のサイクルということで見れば、コールドフェイズでもモンスーンが抑制されると考えてもよいはずだ。

司会：ENSO のサイクルを海が決めるか陸が決めるか、という点に関して、海の自己周期は6年といった長いものであるから、海のサイクルがひとまわりしてエル・ニーニョがおこることもあれば、サイクルの途中でヒマラヤの雪のような陸の要因がモンスーンを介してエル・ニーニョをトリガーすることもあるということで両説の調和がとれるのかかもしれない。

第1回「環境科学」シンポジウムのお知らせ

主催：「環境科学」特別研究総合班・「環境科学」シンポジウム実行委員会

日時：昭和61年11月12日(水)～14日(金)

場所：東京虎ノ門パストラル

〒105 東京都港区虎ノ門 4-1-1

TEL. 03-432-7261 (大代表)

〔交通〕 地下鉄銀座線虎ノ門駅下車徒歩8分

地下鉄日比谷線神谷町駅下車徒歩2分

<プログラム>

3日間9:00より17:00まで4会場にて、環境科学全般にわたり広範な研究成果340篇が発表されます。

参加費：要、当日渡しの講演要旨集代を含む。

事前の参加申込みは不要

懇親会：11月12日(水)18時より同パストラル宴会場

葵間、会費5,000円(予定)実行委員会まで早

目に葉書で申し込んで下さい。なお、当日も受け付けます。

展示：期間中、文部省科学研究費「環境科学」特別研究成果報告のデータベース(筑波大学環境科学研究科、UTOPIA)および国立公害研究所のデータベース INFOTERRA のオンライン検索の展示・実演を企画しております。

連絡先：〒305 茨城県新治郡桜村

筑波大学大学院環境科学研究科内

「環境科学シンポジウム」実行委員会

実行委員長 山中 啓

(TEL. 0298-53-4752, 6598 いずれも直通)

なお、プログラムについては、郵送料60円切手同封の上、連絡先に申し込むこと。